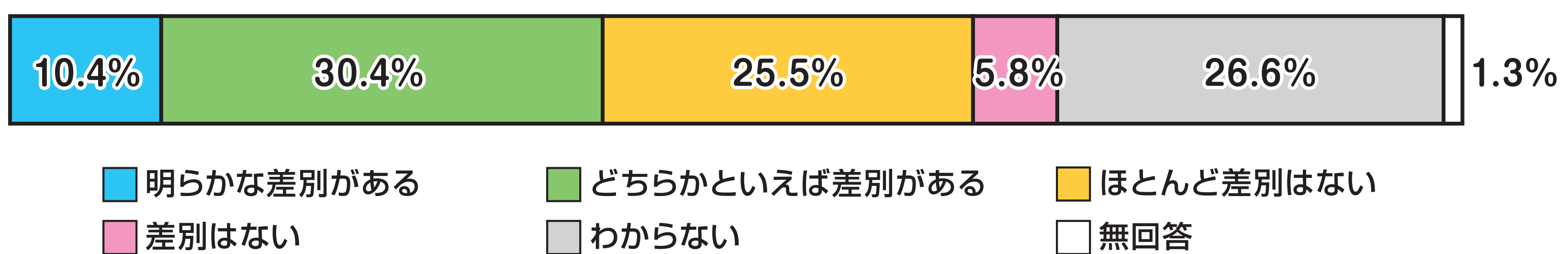


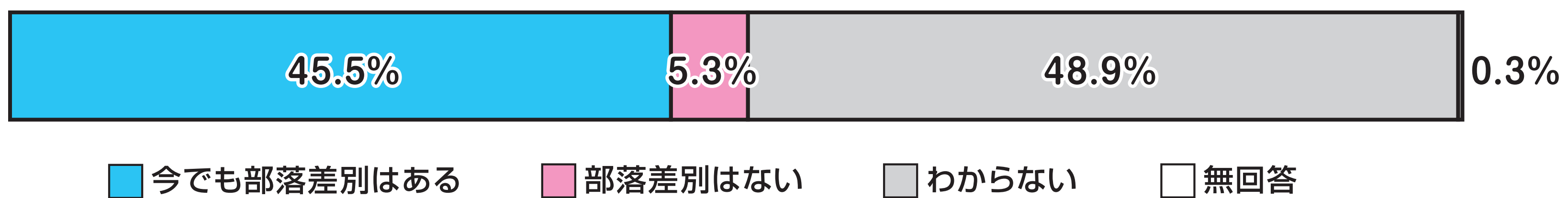
「現在もなお 部落差別が存在する」 …多くの人の実感は!?

次のグラフは、県民意識調査と「部落問題に関する生徒アンケート(以下「生徒アンケート」という)」の結果です。

【県民意識調査】 **Q** あなたは、現在、部落差別があると思いますか。



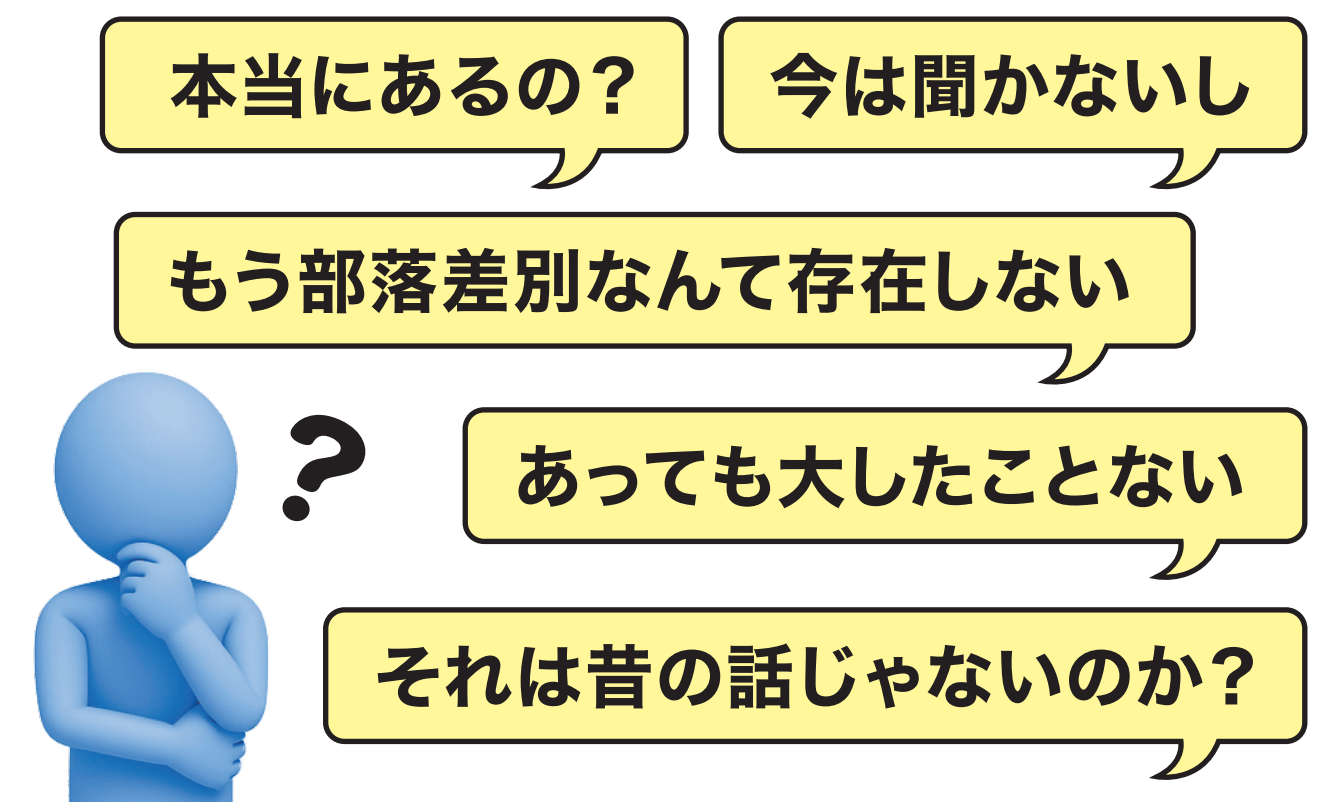
【生徒アンケート】 **Q** あなたは、部落差別の現状について、どのように考えていますか。



「明らかな差別がある」「どちらかといえば差別がある」をあわせた県民の割合は40.8%、「今でも部落差別はある」と回答した生徒の割合は45.5%と5割を切っているような状況です。

また、「部落差別なんて『本当にあるの?』『あっても大したことないんじゃないの?』という声も聞こえます。

法律では、「現在もなお部落差別が存在する」とされていますが、差別が見えない理由はどこにあるのでしょうか。



何が部落差別を見えなくさせるのか!?

- 被差別の当事者が感じる部落差別に対する不安、部落差別を受けて悔しかったこと、辛かったことなどは、なかなか他の人に感じとってもらえるものではない
- 被差別の当事者が声をあげ、周囲に訴えざるを得ないのだが…
 - ▶ 自らが被差別部落出身者であることをカミングアウトしていることと同じ
 - ▶ さらに差別を受けるリスクを負うことになる
- 本当は訴えたくても、声をあげることができなかったり、我慢を強いられたりする

差別の力が差別の存在の可視化や共有化をねじ伏せる

